創立40周年にあたってのご挨拶

日本オペレーションズ・リサーチ学会会長　刀根　薫

1957年に会員数わずか305人で創立されたOR学会は，本年5月に40周年を迎えます．会員数も3000余人に達し，着実に研究，普及活動が行われています．これもひとえに諸先輩会員の献身的な奉仕とORに対する情熱が可能としたことであります．この欄をお借りして，先ず学会の先駆者の方々に感謝の意を表したいと思います．40周年という区切りはあまり一般的ではありませんが，人間の一生においても40台は壮年期として非常に重要な意味をもっています．OR学会も「自分の顔」に責任をもつ年齢にさしかかったわけです．これからの10年間は学会の将来を決定する重要な10年となることでしょう．会員の皆様の一層のご協力と創造的な活躍をお願いする次第です．これからの10年間が正念場となるのはなにもOR学会ばかりではありません．我が国の場合がまさにそうです．半世紀前の敗戦以来「追いつけ，追い越せ」をモットーにひたすら走り続けてきました．QC，IE，ORはそのための管理手法として米国から導入されたものです．明治以来の高い教育水準と日本人の勤勉さに加え，数々の幸運にも恵まれ，我が国は奇跡的な復興を遂げ，1979年にはエズラ・ボーゲルをして「ジャパン・アズ・ナンバーワン」とまで言わせましたし，経営者のなかにも「もう米国に学ぶものはない」と公言する人も出現しました．それが，数度のオイルショック，バブル経済とその崩壊，急激な円高，アジアNIESの台頭，躍進する米国経済，グローバリゼーションの大波を受けていま大きな岐路にさしかかっています．日本の社会が試されています．荷風山人のひそみにならえば「巷間にたゆたう無力感おおい難し」ということでしょうか．様々な分析と提案が識者からなされています．「日本を元気にする」即効性のある特効薬を求めて右往左往しているのが現状ではないでしょうか．敗戦後50年を経て再び敗戦を味わっているというのが率直な感想です．前の敗戦を私は中学2年生で迎えましたが，直ぐに復興の力強い足音を聞くことができました．今回のそれは全く違います．別に戦争で負けたわけではないし，失業者が街にあふれているわけではなし，国民の大多数を占める中産階級は堅実な生活を営んでいます．それなりの豊かさも享受しています．それにもかかわらず，多くの人が前途に暗い予感をもっていると思われます．病根はもっと深いところにあります．日本再興のためのORといった分析がなされねばなりません．これからのOR学会の大きなテーマとなることを願っています．私はかねてから日本は「知のインフラ」の整備を怠っていたと思っていました．高速道路や新幹線といった「物のインフラ」の整備には熱心に取り組んできました．これらはお金をかければ確実に成果が出てきます．しかし知の世界はお金で買えるものばかりではありません．今回の日米の優劣は知の優劣が決め手になっています．かつて日本の工業製品が米国を制覇しつつあったころ，「日本にできてどうしてアメリカにできないのか」と言って奮起したのが米人であったことはまだ記憶に新しいところです．しかし今日「アメリカにできてどうして日本にできないのか」と逆に攻め入るのはそれほど易しいことではないと思われます．それは知のインフラの整備の遅れに起因する点が多く，彼我の差はなかなか縮まらないからです．逆にますます差が開いていくような予感も致します．ここで「知」と呼ぶものは「(独創性)×(展開力)×(実現力)」と言い換えることもできます．この分野の貿易赤字は，様々な領域で絶望的な規模に達しています．さて，これからの日本のORの在り方を議論するとき，このような現状を十分認識する必要があります．ORには国境はないという見方もありますが，学会としては日本を対象とするORが最も重要な課題であります．今回の40周年記念事業にあたり賛助会員各社からこの不況下にもかかわらず過分の特別会費を頂いていることは，ORに対する期待の大きさを表わしているものと思い，責任を重く感じている次第です．ご賛助頂きました各位にあつく御礼申し上げます．40周年を一過性のものとすることなく，各事業を学会発展のために有効に実施し，その成果を社会に還元して行きたいと思っています．会員各位のご協力を切に願う次第です．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．